

金城武主演 賛否両論の香港映画『風林火山』

NPO法人日本香港協会（東京）広報委員 武田 信晃

第38回東京国際映画祭が2025年10月27日から11月5日まで開催されました。うち香港映画は4本上映され、注目は金城武、劉青雲（ラウ・チンワン）、梁家輝（レオン・カーフェイ）、古天樂（ルイス・クー）らが出演する『風林火山（Sons of the Neon Night）』です。公開後賛否両論に分かれた映画ですが、製作費は4億香港ドルという大作です。

あらすじは1994年、銅鑼湾（Causeway Bay）でテロ攻撃が起こります。数時間後、製薬会社である橋言集團のトップが病院にいた時に自爆テロが発生し、トップは死亡します。実はこの会社、裏では麻薬密売組織でもありました。トップの息子の李霧童（演・金城武）は、組織をクリーンにするべく麻薬取引を停止しますが、地下社会では大混乱に陥ります。

『風林火山』は、武田信玄や孫子の兵法を思い浮かべますが、監督の麥浚龍（ジュノ・マック）ら製作陣は、その考え方に加え、汚職警官や殺し屋らの登場人物に対し、そうならざるを得なかった理由があり、画一的に白黒できない……ステレオタイプを覆した新世界を描くという「裏テーマ」もあるそうです。

◆企業の矛盾も描く

映像はモノトーンに近く、銅鑼湾の中心部で大爆発が起こる場面やCGを使って香港に雪が降るシーンなどは圧巻です。人を殺すところは、北野武の映画のように感情を排除して淡々と殺すスタイルです。出演陣は、上記のほか高圓圓、任賢齊（リッチー・レン）などオールス

ターキャスト。ゆえに登場人物が多く、相関関係の把握が大変で、シーンがあちらこちらに飛ぶので、話を追うのも苦労します。事前勉強をするか映画冒頭に、現況を説明する字幕が流れるので、理解できれば映画が楽しみやすくなるでしょう。

薬という健康ビジネスをしながら、裏では麻薬という反社会的で不健康を助長する矛盾が描かれていますが、製造業なら製造コストを低くするために環境負荷をかける、ITなら個人データを収集するがプライバシー保護が十分ではないなど、矛盾を抱えながらビジネスをする企業に警鐘を鳴らしています。

同映画は12月15日現在、配給会社が決まっておらず、日本での上映がどうなるのか不透明な状況です。



『風林火山（Sons of the Neon Night）』

2026年1月発行（禁断断転載）

目次

| | |
|---|---|
| 金城武主演 賛否両論の香港映画『風林火山』 | 1 |
| 香港映画の現在を映す TIFF2025 一越境の時代を歩む香港映画 | 2 |
| 私と香港ビジネス | 3 |
| 香港日本人学校・香港校の思い出 第2回 | 4 |
| 香港ワイン&スピリッツ・フェア、日本酒人気は相変わらず | 6 |
| 連合会・各協会便り | |
| 全国：「第26回香港フォーラム」＆「第14回全国連合会総会・第15回全国交流会」開催報告 | 7 |
| 東京：クリスマスパーティー開催 | 8 |
| 関西：法人会員交流会開催／香港ビジネスセミナー～メディアでは語られない香港市場とインバウンドにおける商機～／「香港の集い」懇親パーティーの開催 | 9 |

| | |
|--|----|
| 中部：香港で開催された展示会に、中部エリアから多くの事業者が出席 海外販路の創出・拡大に関する取組のご紹介 | 10 |
| 九州：地域資源をアジアへつなぐ九州企業の新たな展開 —ライブコマース・体験観光・食の輸出が示す変化の潮流— | 11 |
| 山形：山形と香港の架け橋 | 12 |
| 北海道：北海道の“おいしい”が香港を魅了！ | 13 |
| 宮城：香港料理教室ミニイベントを開催 | 14 |
| 沖縄：香港での国際会議に参加して | 15 |
| 広島：広島日本香港協会令和7年度通常総会／交流会 | 16 |
| 新潟：「新潟から香港へ——国際交流の連続性と未来への期待」 | 17 |
| 高知：新年好！ | 18 |

香港映画の現在を映す TIFF2025 —越境の時代を歩む香港映画—

NPO 法人日本香港協会（東京） 広報委員 汪 江美子

東京国際映画祭（以下、TIFF2025）で上映された作品のうち、製作資金の軸が香港にある新作は、前掲の『風林火山』と『私の愛のかたち』の2本。前回は『トワイライト・ウォリアーズ 決戦！九龍城砦』を含む5本の香港映画が上映されていたことを考えると、やや寂しい印象もあった。それでも、香港の監督や俳優が他の地域の作品に参加し、異なる文化圏をつなぐ架け橋となっていた点で、TIFF2025は香港映画の現在地を示すものだった。ここでは、香港をめぐるもうひとつのラインナップという視点から、同映画祭を振り返りたい。

◆香港発—アクションの系譜を継ぐ監督による社会派ドラマ

『私の愛のかたち』は、先天性の脳性まひを抱える女性と、障がい者支援団体に活動する男性との関係を描いたラブストーリーである。主演は廖子好（フィッシュ・リウ）と陳家樂（カルロス・チャン）。フィッシュはマレーシア出身で、現在は香港を拠点に活動している。

監督の譚惠貞（タム・ワイチン）は1980年代生まれの香港出身。故・陳木勝（ベニー・チャン）監督作『レクイエム 最後の銃弾』（2013）などで脚本を手がけ、『青春の名のもとに』（2017）で長編監督デビュー。本作は彼女にとって2作目の長編となる。

コロナ禍の政府支援制度を活用して製作された本作の個人の尊厳を見つめる視点は、社会的テーマを積極的に取り入れる近年の香港映画に新たな一頁を加えている。

◆越境するまなざし、交差する物語

マレーシアの張吉安（チョン・キット・アン）監督による『母なる大地』では、中国の范冰冰（ファン・ビンビン）と香港の蘇楚欣（ナタリー・スー）が共演。1990年代末のマレーシア北部を舞台に、土地に根ざした記憶と信仰が交わる叙情作だ。北京語・福建語・タイ語・マレー語が飛び交う多言語映画。

台湾の許承傑（シュー・チェンチエ）監督作『ダブル・ハピネス』は、台湾人男性と香港出身の婚約者の結婚式当日を描く群像劇で、香港の余香凝（ジュニア・ユー）が出演。台湾製作ながら世界セールスは香港企業

が担い、アジアの映画産業の広がりを示す。

香港生まれで幼少期をタイで過ごした陳可辛（ピーター・チャン）監督による『She Has No Name』は、1940年代上海の實在の事件を題材にした作品。家庭内暴力に耐えかねた妻の物語を中国の章子怡（チャン・ツイイー）が演じる。香港でキャリアを築き、ハリウッドを経て北京に拠点を移した陳監督の歩みは、香港映画の歩んできた道にある意味、象徴している。

◆循環する興隆と再生—クロスボーダー時代の香港映画

香港映画の歩みは、常に地域の力学とともに変化してきた。

1990年代初頭まで、香港資本を軸に台湾の出資と市場の支えを受けて黄金期を築いた香港映画産業は、やがて構造的な限界を迎える。当時、香港の人口は約600万人。ローカル市場だけでは成立せず、台湾市場に依存し、さらには東南アジアや北米、欧州など、世界各地の中国系住民を主要な観客層としていた。しかし1994年、台湾政府が外国映画の輸入規制を撤廃すると、台湾の配給会社は香港映画の高額買い付けをやめ、ハリウッド作品が急増。1997年のアジア金融危機が追い打ちをかけ、香港映画は資金と市場の両方を失った。

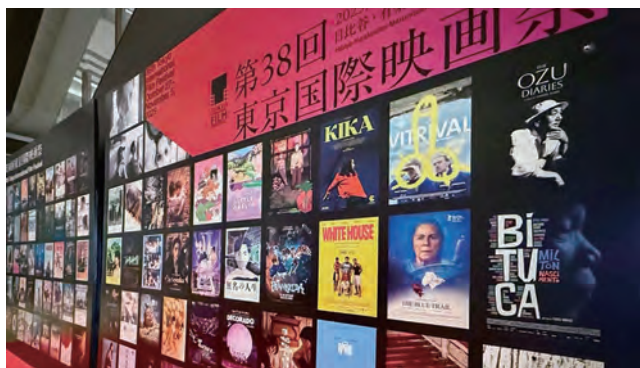
そして2003年、中国本土と香港経済貿易連携緊密化協定（CEPA）で、香港と大陸との共同製作映画は、中国が設けていた年間20本という外国映画枠の制限を受けないで済むことになる。中国という巨大市場の誕生である。大陸との共同製作が本格化し、大陸資本の流入で香港映画の製作環境は再構築されたが、検閲制度や市場原理への適応が進むなか、作品の題材や語り口は変化を余儀なくされた。香港映画は独自性を保ちながらも、大陸市場との折り合いを探る時期を迎えたのである。

現在、香港映画は第三の段階にある。大陸との協働を基盤に、台湾、日本、マレーシア、タイ、欧州へと資本と人材のネットワークが広がり、企画から製作、配給までが地域を越えて連動している。香港はアジア映像産業のハブとして新たな役割を担い、柔軟な現場対応力と国際的視野がその持続的発展を支えている。市場や政策の変化に応じて製作モデルを転換し、各地との協働を重ねてきた経験こそが、香港映画産業の存続を可能にさせているのである。

香港映画産業はどこに向かうのか。その未来を当事者の一人として共に模索し、見つめ続けていきたい。

〈プロフィール〉

汪江美子（わん・えみこ）サロンジャパン(株) 取締役・営業マーケティング部長。慶應義塾大学大学院修了後、日本・東京商工会議所勤務を経て2019年に香港へ。香港沙龍電影で映画・ドラマ製作に携わる一方、日本支社で香港映画の配給・宣伝を担当している。



全184作品が上映された TIFF2025

私と香港ビジネス

NPO 法人日本香港協会（東京）顧問 アルフレッド・チャン

私にとって、香港は母国であり、日本は第二の故郷です。1973年10月、香港中文大学を卒業後、東京でさらに学びを深めるため上京しました。大学院を三田キャンパスで修了後、東京に拠点を置く香港系の海運会社 OOCL に就職する機会を得ました。

コンテナ事業に携わる仕事は、貿易や船舶運航に関連した海外出張の機会を数多く与えてくれました。特に香港人を中心とした海外の友人やビジネスパートナーとのネットワークを徐々に築き上げていきました。OOCL 在籍中、1990年代には日本地方港湾のネットワークサービス構築を任せられ、福岡、松山、敦賀、川崎、高知といった港湾都市を頻りに訪れることになりました。その結果、福岡市の MICE（Meeting Incentive Convention Exhibition）大使や松山、敦賀、川崎、高知各市の港湾アドバイザーなどに任命される栄誉もいただきました。

ビジネスとは常にネットワークの効果が鍵を握ります。私は次第に、日本の中小企業が海外市場、特に香港を開拓する支援の機会が多いことに気づきました。私の役割は、日本の中小企業と香港の潜在的なバイヤーとの間にコミュニケーションとビジネスの橋渡しをすることです。典型的な事例の一つが、福岡県唐泊産の牡蠣を香港でプロモーションしたことです。香港のレストラン仲間や福岡市の支援を得て、香港で数回の牡蠣パーティーを開催しました。レストランオーナー、JSHK（香港日本文化協会）会員、牡蠣や日本酒の愛好家、潜在的なバイヤーを招待し、楽しい集まりを実現しました。新鮮な牡蠣は福岡から空輸し、私の日本人友人たちも香港に飛び、提供を担当しました。私の専門分野がコールドチェーンロジスティクスであるため、食品安全は常に最優先事項でした。

牡蠣のプロモーション以外にも、日本酒の香港進出を支援しました。代表的な事例は、八戸酒造のマーケティングを香港で展開したことです。潜在的なバイヤー、KOL（キーオピニオンリーダー）、レストランオーナー、日本大使館の日本酒プロモーション担当者、JHKS 理事、香港の日本酒ソムリエを集め、有名中華レストランで中



八戸酒造の香港におけるプロモーション活動（2024年10月）

華料理と日本酒のペアリングイベントを実施しました。高品質な日本酒の試飲を中心としたこのネットワーキングイベントは、香港での日本酒販売を促進し、香港の人々に日本酒の優れた味わいと魅力をより深く理解してもらう機会となりました。

私は常に、異なる文化の人々をつなぐことの美しさを心に留めています。それはビジネスだけでなく、相互理解の促進と、誰もが大切に思う永続的な友情を育むためでもあります。

高品質な食品に対する需要がますます高まる中、コールドチェーンロジスティクスは、温度管理と空気成分制御を必要とする商品のジャストインタイム（JIT）輸送と品質保証に不可欠な要素です。肉、野菜、果物だけでなく、化学品、医薬品、骨董品、高級衣類、動物、さらには高価な血漿など、さまざまな商品が完全なコールドサプライチェーンを必要とします。グローバルにこれらの商品を移動させるためには、専門家のネットワークが成功の鍵を握ります。セミナー、販売ネットワーキング、コンサルタンシーサービス、AIの活用を通じて、ロジスティクスのノウハウを共有します。具体的には、サプライチェーンの意識向上、ブランド価値構築、リーファー技術の最新情報更新、グローバル販売調整、AI応用、人材採用、ESG（環境・社会・ガバナンス）、地球温暖化への警鐘、最新規制、エネルギー節約などが対象です。

私の所属するコンサルタント会社のもと、香港および中国で定期的にセミナーやネットワーキングイベントを開催し、こうした知識共有を推進しています。これらの活動を通じて、業界の専門家同士のつながりを強化し、より効率的で持続可能なコールドチェーンロジスティクスの未来を築いていきたいと考えています。



香港物流業界OB懇親会（2024年10月）

香港日本人学校・香港校の思い出 第2回



完成当時の香港日本人学校・香港校（同校フェイスブックから）

香港日本人学校の香港校が2026年3月に閉校し、新界の大埔校に統合されることになった。かつて香港校で学んだOB・OGに学校の思い出を語ってもらう企画の第2回をお届けする。

香港校は1974年に開校。それまでの銅鑼湾のオフィスビル・タワーコート（2フロアを使用）から移転した。校庭やプールも備え、香港日本人学校で初めて校舎らしい建物になった。しかし開校から50年を超えて維持費がかさむことや、児童・生徒数も小学部289人、中学部94人（25年11月末現在）と、1996～97年ごろのピークから大きく減少したため、協議を重ねた結果、統合することとした。

26年3月には、かつての在校生や赴任していた先生方に思い出の地を見てもらう「校舎開放日」を設けることを予定している。

大音一裕さん

▶ 1972年（小1）～81年（中3）

私が香港へ行ったのは1972年10月下旬、小学1年生でした。当時の日本人学校は銅鑼湾の旧リーガデンホテルの近くにあり、校内に運動場はありませんでした。運動会が近づくと、スクールバスでハッピーバレー競馬場へ行き、レーストラックの内側で徒競走などの演習を行っていたことを覚えています。

新校舎は小学3年生のころに完成し、運動場、体育館、プールに加え、理科室、家庭科室、音楽室などが整備されました。真新しい建物の香りに包まれながら胸を高鳴らせたあの瞬間は、今も心に深く刻まれています。スクールバスで登校した朝には、授業開始まで運動場でキックベースボールに興じて過ごしたものです。

音楽室には足踏みオルガンが並び、中学部に進学してからは年に一度、レコードコンサートが催されました。当時流行していたロック音楽が流れ、仲間とともに耳を傾けた時間は青春の1ページです。この校舎で多くの友人と出会い、数え切れないほどの思い出を重ねました。個性豊かで魅力あふれる先生方からは、教科書の知識だけでなく、道徳やユーモアといった人生の滋養となる教えをいただきました。

中学部卒業後に帰国してからも、同級生とは異国の地や職場で再会し、はたまた空港で偶然の再会もありました。現在でもさまざまな手段で互いの近況を知り、つながりを保ち続けています。私はこれまで欧米や中国などの国に駐在する機会に恵まれましたが、残念ながら香港に長期滞在する機会はありませんでした。しかし、かつての住まいから望んだビクトリアハーバーの景色、部屋の明かりを消して静かに夜景を眺めていた時間は、まるで昨日のここのように思い出されます。そして思い出の母校が閉校予定と伺いました。あの時に得た学びと友情は、今も私の中で息づいています。この場をお借りして、日本人学校ならびにすべての関係者の皆様に心より感謝の意を表します。ありがとうございました。



神谷太さん

▶ 1975年（小4）～77年（中1）

香港日本人学校では、当時の校舎の校庭で昼休みにキックベースボールをしたこと、銅鑼湾の松坂屋で買った少年チャンピオンをまわし読みしたこと、週末に唯一観ることができた日本語のテレビ番組「パパと呼ばないで」や「太陽にほえろ！」の感想を友人と語り合ったこと、野球のリトルリーグでは欧米人中心のチーム・パイレーツに入り、補欠でしたが最後にはレギュラーになれたこと……、たくさんの思い出がありますが一番記憶に残っているのは広州への修学旅行です。

広州の街は自転車であふれかえり、人民帽をかぶって観光したことをよく覚えています。宿泊したホテルで同室の友人と深夜まで遊んでいたところを先生に見つかった叱られたこと、広州の人民公社の学校では、中国語の歌と、日本の歌の「さくら」を披露したところ、そのお返しとして中国側は派手な演舞を披露してくれて、同じ年代とは思えず圧倒されたことも懐かしい思い出です。

今、大人になって、香港で過ごした少年時代の多くの学び体験が自分の道標になってくれていることを感じます。社会人になり、上海駐在時にお客さんとの宴席で、修学旅行で覚えた「我爱北京天安门」の歌を披露すると大喜びしてくれて、商談がうまくまとまったということもありました。それ以来、中国人の同僚から歌ってほしいと、よく頼まれたものです。香港で過ごしたからこそ、海外での生活も抵抗感なく楽しむことができました。

香港では週末に広東料理を家族と食べに行くことを楽しみにしていたのですが、今でも、美味しい広東料理を食べると今は亡き両親の笑顔が蘇り、温かい気持ちになります。香港日本人学校の友人とは今でもつながっていて、思い出話をしたり、近況を語り合ったりすることができるのは幸せなことです。しばらく会わなかった友人とも、会えばすぐに少年時代の頃に戻れる。そんな友人がいることは、自分にとって何よりも誇れる資産だと感じています。





福嶋葉子さん (旧姓・栃原)

▶ 1974年(小3)～78年(小6)



香港を想うと最初に浮かぶのは夜のスターフェリーです。木枠の窓辺から望む夜景、エンジンと波の音、潮の香りが五感に蘇ります。同時になぜか日本人学校校舎のヌルッとする壁の感触を思い出します。当時の私は学校内を駆け回っていました。地下の体育館と教室間を移動するとき、鬼ごっこやドロタン(泥棒と探偵)に夢中になっているときなど、機会があれば走っていました。階段の二段飛ばしは当たり前、三段の飛び降りも怖くありませんでしたが、6月のある日、バランスを崩し咄嗟に壁に手をつくるとヌルリとした手触りにドッキリし、危うく転びそうになりました。緑と白に塗り分けられた壁の表面にびっしりと水滴がついていたのです。

その後湿度の高い時期は壁に触れないよう注意しつつも相変わらず校舎内を駆けていました。それが5年生と6年生のマラソン大会でメダルをもらうことができた一因だったかもしれません。

学習面で記憶に残っているのは英語の授業です。毎年4月になると基本的な文章から始まる授業。なぜまたここからのスタート?と当時は思っていました。が繰り返し基礎を学んだおかげでしょうか、日本に帰り中学生となって以降、英語が得意科目になりました。日記を書いて先生に提出すると毎回赤ペンでコメントをいただいたこと、読書感想文を書いて褒められたことも、その後の学習で自信につながりました。

昨年還暦を迎え育児を終えた後も英語を使う仕事を続け健康で幸せに過ごしています。香港日本人学校で過ごした3年7カ月は楽しく幸せな時間であったと同時に、現在の私を形成した貴重な基礎固めの時期でもありました。いつもやさしかった先生方、おおらかに育ててくれた両親、そして懐かしい話が尽きず心から笑い楽しい時間を共有できる同級生。皆さまに本当に感謝しています。ハッピーバレー校舎の閉校は残念ですが、思い出は年を重ねるごとに色鮮やかになるような気がしています。

布施直子さん

▶ 1977年～78年(派遣教員)



私は1977～78年度の2年間、香港日本人学校に在職しました。当時校舎は新しく、きれいでした。着任式のとき子供たちが歌ってくれた校歌、「青い海、白い波……」のはじけるような元気な歌声は今もはっきり耳に残っています。私は中学部2年生の担任で、担当教科は国語。課外活動では水泳部の顧問になりました。校舎の一角にあり、外への開口部が広くとられた、ひんやりした屋内プールで、水を心地よく感じながら生徒たちと泳いだことは忘れ難い思い出の一つです。

78年7月、中学部2、3年生の合同で、中国広州市への修学旅行が計画されました。見学地の選定など、いろいろな計画があった中に、広州市の子どもたちと交流する際、日本の歌とともに中国語の歌も合唱しようということになり、小椋佳さんの「さらば青春」「我爱北京天安门」そして「茶摘みうた」を選びました。「茶摘みうた」は、私が大学に入って上級生から何回も聴かせてもらって覚えた歌で、1960年ころ中国語を学んだ学生が歌った中国福建省の民謡です。ただ、生徒たちが合唱の練習を始めようにも楽譜がありません。そこで中学部の音楽科担当の永尾敏子先生に、私が歌って音譜に起こしていただき、先生のご指導の下、練習ができるようになりました。歌詞は「百ハイホアカイファンハオチュンゴワーン花ツァイチャディクワン开放好春光 / 采茶的姑娘マンシェンガール (色とりどりの花が咲き春の光が満ちて茶を摘む娘たちは丘にうち揃い)」です。ちゃんと歌えるように片仮名でも表記しました。生徒たちはしっかり練習して、のびのびと合唱を披露してくれました。

2010年ごろに開いてくれたクラス会では、私が担任した当時の年齢をすでに過ぎた、かつての教え子たちが集まり、その中で原山君が「茶摘みうた」をすらすらと歌って聴かせてくれて、私はびっくり。香港のたくさんの思い出の中で、いつしか埋もれていたこの歌の記憶が瞬時によみがえりました。そして次の会ではこの歌をみんなで歌ったのでした。



小学1年の時の大音さん



運動会で披露した花笠音頭 (左前が神谷さん)



小学校卒業式後に仲良し3人で (右端が福嶋さん)



中学2年2組の山登り遠足 (左端が布施さん、1978年)

香港ワイン&スピリッツ・フェア、日本酒人気は相変わらず

香港貿易発展局東京事務所 マーケティングマネジャー 引地 洋介

2025年11月6～8日、アルコール飲料全般の専門見本市「香港インターナショナル・ワイン&スピリッツ・フェア」が香港で開催されました。アジア有数の酒類展示会として、3日間の会期中、香港や中国本土はもちろん、アジア、ヨーロッパ、アメリカなど23の国・地域から620社以上が出展し、57の国・地域から8,200人を超えるバイヤーのほか、一部一般公開された最終日には、1万1,000人を超える一般来場者が来場し、大きな賑わいを見せました。

香港では2008年以降、アルコール度数30%未満の酒類に対する物品税が撤廃され、それにより域外からの酒類の輸入額、輸入数量がともに大きく増加しました。香港で消費されるアルコール飲料の約半分がワインとなっていますが、香港は単なる消費地としてだけでなく、アジア向けのワイン貿易・流通のハブとして発展し、またクリスティーズやサザビーズなどの大規模オークションが開催され、国際ワインオークションの中心地として世界市場でも注目される取引拠点として成長しています。2024年からは、それまで課せられていた30%超の酒類への100%の物品税が一気に10%に引き下げられ、特に高級酒類の取引拠点、消費地としての役割への期待が一段と高まっていました。こうした背景の下、今年同展に初めて設置された「ワールド・オブ・スピリッツ」ゾーンには14の国と地域からの出展者がウイスキー、ブランデー、ウォッカなどの高級酒を中心に展示しました。これは出展者ベースで全体の3分の1以上を占め、バイヤー、一般来場者から大変注目を浴びました。



大盛況の日本ブースエリア

世界中の多種多様な酒類を試すことができるというのが当展示会の醍醐味の一つです。会場には、日本各地の清酒、アイルランド産ウイスキー、ロシア産ウォッカ、イスラエル産ワイン、中国各地の白酒、ブランデー、テキーラ、ジンなどのほか、チーズ、ハム、ソーセージなど酒の「お供」も出品されました。来場者はグラス片手に多くのブースをはしごし、ここぞとばかり試飲を楽しむ姿が会場内のあちこちで見受けられましたが、そのどれもが満面の笑みをたたえていたのが印象的でした。



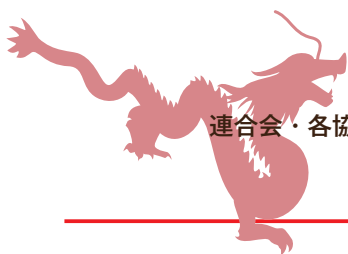
日本のフルーツカクテルも大人気

多彩な出展で賑わう中、ひととき注目を集めたのが日本からの出展者が集まるエリアです。国税庁、山形県、岐阜県、愛媛県酒造協同組合など約40社が出展し、日本酒や焼酎はもちろん、クラフトスピリッツ、柑橘系リキュールなど、日本ならではの多様な酒文化を象徴する幅広い商品が出品され、連日多くの来場者が訪れ、特に最終日は混雑でブース前の通路が通り抜けできないほどの盛況ぶりでした。国税庁、山形県、愛媛県酒造協同組合は日本酒をPRするセミナーを会場内で実施し、酒造りの背景にある各産地の豊かな風土、歴史や文化、作り手の思いやこだわりなどが紹介され、いずれも満席となるなど、日本酒や日本の食文化への関心の高さを伺うことができました。

また、今回初めて企画された中華料理と日本酒のペアリングセッションでは、日本の出展者が提供した特別な日本酒とマッチする中華料理を地元香港の一流シェフが考案し、会場内で実演する形で参加者に振る舞われました。中華料理ではお馴染みの食材や味付けと日本酒との絶妙な組み合わせに、新たな発見と喜びを感じたと興奮気味に話す参加者もあり、大きな反響がありました。日本酒は日本食と合わせて、という固定概念を打ち破り、新たな楽しみ方が提案できたという点で画期的で、日本酒にとって新たな客層の発掘や市場の拡大につながる有意義なアプローチとなったと感じます。



中華料理と日本酒のペアリングセッション



NATIONAL

全国連合会

日本香港協会 全国連合会 事務局

「第26回香港フォーラム」&「第14回全国連合会総会・第15回全国交流会」開催報告

◆第26回香港フォーラムへ日本香港協会から総勢90名が参加

2025年12月2～3日、香港ビジネス協会世界連盟 (Federation of Hong Kong Business Associations Worldwide) の世界大会「香港フォーラム」が、香港コンベンション&エキシビション・センターにて開催されました。今年は全世界から約320名を超える会員が参集、日本からは90名のメンバーが参加し、大盛況のうちに幕を閉じました。

例年どおり、2日間の会期中には、ウェルカムディナー、昼食講演会、パネルディスカッション、視察ツアー等数多くのイベントが催されました。

初日冒頭の開会式では香港ビジネス協会世界連盟マーガレット・ウォン会長からの歓迎挨拶、香港貿易発展局ソフィア・チョン総裁の開会挨拶があり、昨年5月に開催された新潟日本香港協会主催のアジアフォーラムにも参加されたウォン会長からは、自身の参加された世界各地のイベントの中でも、新潟のイベントの素晴らしさについて賞賛の言葉をいただきました。

初日のメインプレナリーでは、国際企業が香港をどのようにグローバル市場への進出拠点として活用しているかについて、またテーマ別セッションでは香港の創造性とイノベーションが香港の経済成長と文化の活力を推進するかについて、香港で企業を営む世界各国のパネリストが議論しました。

同日夜のウェルカムディナーは、尖沙咀のショッピングモール「ザ・ワン」の18階にある「スタービュー」で開催されました。素晴らしい景色を望むこのレストランは、色とりどりの光で彩られた香港の夜景が一望できます。全世界からの参加者は、おいしい広東料理のフルコースメニューに舌鼓を打ちながら、屋外テラス席からはビクトリアハーバーの270度の夜景を存分に堪能しました。

2日目の昼食講演会には香港特別行政区政府のジョセフ・H・L・チャン金融サービス・財務担当次官が登壇、香港の魅力に参加者に発信するとともに、香港の長期的安定と繁栄について語りました。

また、世界各地の協会の活動に対するアワード表彰式では、多数の応募の中から、それぞれ年間を通して行った活動で最も成果のあったイベント或いはプロジェクトを主催した協会に贈られるベスト・イニシアティブ・アワードを、「アジアフォー



アワードを受賞した新潟日本香港協会メンバーと連合会の佐藤会長



アワードを受賞した九州日本香港協会メンバー

ラム 2025 in Niigata」を主催した新潟日本香港協会が受賞しました。

また、今年度より新たに設けられた若者対象の「ユース・フォーカスト・レコグニション・アワード」を、インターンシッププログラムを4つの香港の大学と日本の企業の間で実施された九州日本香港協会が受賞しました。

◆全国の日本香港協会メンバーが香港に集まりました

香港フォーラムの前日、12月1日には、「ビクトリア・ハーバー・スプリーム」において第14回全国連合会総会と第15回全国交流会が開催されました。山形を除く全国10協会の代表が出席し、全国連合会佐藤征洋会長が議長を務めた総会では、本年度の活動の振り返りと来年度の新たな事業計画が討議され、監査や人事に関する報告がなされました。

続く全国交流会は幹事協会である宮城日本香港協会ベギー・タン青年部会長の進行のもと開会、冒頭に連合会佐藤会長の呼びかけにより、香港・大埔地区において11月26日に発生した大規模火災に際し、犠牲になられた方々に哀悼の意を表し、参加者全員による黙祷を捧げました。その後、在香港日本総領事館三浦潤総領事 (大使)、香港貿易発展局ベンジャミン・ヤウ日本首席代表 (連合会事務局長) からの挨拶があり、幕を開けた宴席では、地域を越えて参加者間の交流が行われました。交流会の終盤では、関西日本香港協会会員でピアニスト兼シンガーソングライターの海賀千代 (かいがちよ) 様に歌をご披露いただきました。

次回は、今回お越しいただけなかった皆様にもご出席いただき、メンバー間の相互交流やネットワーキングを深めていただければと思います。



香港で一堂に会する日本香港協会の会員



クリスマスパーティー開催

当協会は恒例となっているクリスマスパーティーを2025年12月18日銀座二丁目 THE BAGUS PLACE（バグース・プレイス）にて18:30より約2時間の宴として開催いたしました。会員・非会員合わせて約100名の参加で盛況に執り行えました。とは言え、11月に大埔で発生した火災では被災者が多く大変大きな痛ましい事故となってしまったことから、香港では街を挙げて年内の服喪を決めており、これに伴ってこれまでいつもご出席頂いていた香港経済代表部の皆様も今回はご欠席となりました。

司会者による開会宣言の後、佐藤会長挨拶冒頭に、参加された皆様に黙祷をお願いし会場一同で犠牲となられた方々のご冥福をお祈りしました。その後香港貿易発展局のベンジャミン・ヤウ日本首席代表にご挨拶頂きました。今回はこの類の催し物では恒例となっている乾杯の儀は敢えて行いませんでした。本来乾杯は、古代ローマやギリシャで食事会での飲み物による毒殺が頻繁に行われていたため、主催者が先ず飲み物を飲んで陪席者に見せてその安全性を示すことから始まったとされていますので、特に祝意を示す行為では無かったようです。現在では慶事開始の合図、と言った色彩が強いため乾杯は避けよう、と言うことで、冒頭に乾杯はせずに三々五々の開始といたしました。また、香港と日本をつなぐ架け橋として、何か日本からできることがないかという思いから、受付に募金箱を設置し、皆様よりのご厚志を頂戴しました。本パーティーだけで計3万9,000円の募金が集まりましたので、香港政府が設置した“Support Fund for Wang Fuk Court in Tai Po” あてに送金させていただきます。

ここ数年は芝公園の会場で立食buffet基本にて開催していたクリスマスパーティーですが、毎年理事会にて、主催者としてなるべく多くの参加者の皆様の相互親睦の機会としてご利用頂けるように、と議論を重ねて工夫しております。

これまでも着席buffet形式や一部着席形式の採用とさまざまな形態で開催してきました。今年も理事会での侃々諤々の議論を経て、会場の構造や形状による死角がなるべく生じない場所を選択することを優先し、会場を変更いたしました。大人数buffet形式の際には、どうしても食事提供の円滑化が課題となり、列に並ぶ時間・手間が参加者の皆様のコミュニケーション機会を減らす強い傾向がありました。今回はコストアップしても全員着席として、テーブルごとに大皿配膳、テーブルを10人掛けの比較的大きなモノを採用して、食事を楽しみながら、より多くの参加者同士のネットワーキングを可能とする設計としました。会場で主催者側が一部の参加者の方々からお話を伺う限りでは概ね好評だったと了解しておりますが、ご参加の皆様から何かご意見・コメントがあれば大歓迎ですので、日本香港協会事務局あてに是非ご連絡下さい。



ラッキードロー特賞の香港航空ビジネスクラス



クリスマスパーティー参加者の皆様

メインイベントであるラッキードローでは、今年も多く多くの会員より賞品のご提供を頂きました。一等賞として香港航空からは東京ー香港ビジネスクラス往復チケット、田中コーポレーションよりは銀座喜記での食事券、インターアジアよりの高額商品券、ケイブライツ、アーバンシステムズ、ヨネテック等々多くの皆様のご芳志を頂きました。また、今回は大昌貿易行のご配慮により、ご参加の皆様全員にお土産をお持ち帰り頂きました。皆様のご協力を得て、今年も当協会のクリスマスパーティーを無事に終えることが出来ました。



KANSAI

関西日本香港協会

関西日本香港協会 事務局

法人会員交流会開催

毎年6月に開催してきた法人会員交流会を、2025年は日程の調整がつかず、9月9日に中華料理「錦城閣」で開催したところ、前年の参加者18名を上回る25名の参加者で盛り上がりました。戒田会長は開会の挨拶の中で、テーブルを囲んで美味しい中華料理を食べる機会は意外と少ない。我々共通の関心事である香港と素敵な会員の皆様との親密な交流を深めるために美味しい中華料理をいただきながら大いに交流を深めましょうと述べられました。続いて、香港貿易発展局のリック・フォン大阪事務所長に「現在と未来の香港」について食事の前の講演をお願いしました。

参加者の皆さんは、フォン所長からダイナミックに動く香港情報を学び、美味しい中華料理をいただきながら、テーブルの皆さんと一緒に大いに歓談し、意見交換しながら、楽しく有意義なひと時を過ごしました。

香港ビジネスセミナー

～メディアでは語られない香港市場とインバウンドにおける商機～

2025年7月29日に大阪国際ビルの17階会議室で関西日本香港協会と香港貿易発展局主催、大阪商工会議所共催の香港ビジネスセミナーを開催したところ120名以上の参加申し込みがあり、会場は満席で盛会でした。セミナーを後援していただいた日本貿易振興機構（JETRO）、中小企業基盤整備機構、大阪産業局、大阪国際経済振興センター、日中経済貿易センター、日中経済協会関西本部の皆さんのご支援に感謝です。香港は、中国本土や東南アジアを結ぶ貿易、物流、金融のビジネス拠点としてその役割を發揮し続けています。それに加えて、グレーターベイエリア構想に基づく再開発、新しい産業（医療、環境、ITなど）のビジネス振興が期待されています。

香港の皆さんはこのような背景があるので強気です。円安でインバウンドが増えて注目されていますが、訪日旅行者の旺盛な日本での買い物を見ていると中小企業が扱う幅広い商品にアウトバウンド、輸出の機会がありま



ビジネスセミナー

す。今回のセミナーでは、日本政府観光局（JNTO）に在任中9年間香港や海外現地でコンサルタントを務め、現在は訪日インバウンドのコンサルタントを務める清水泰正氏に講演をお願いしました。

[講演1] 訪日インバウンドで深化する関西～インバウンド増大と輸出促進の好循環～：Japan Tourism

Research & Consultancy Limited 清水泰正代表取締役

[講演2] 香港の今とライフスタイルの最新概況2025：

香港貿易発展局大阪事務所 リッキー・フォン所長

お二人の講師は、立派な資料を用意されて熱弁を振るわれましたので、会場の皆さんは講義に集中していましたね。講演後の名刺交換も活発でした。

関西万博で大阪に来る外国人が急増しました。彼らの旺盛な買い物の姿を見ていると、外国人が欲しい物が何でもあるのが日本、それらの商品を製造しているのは大半が中小企業です。残念ながら、中小企業の皆さんの中には、英語が喋れない、海外に人脈がない、だから輸出できないということがあります。香港貿易発展局の素晴らしいサービス、ビジネス・マッチング・サービスを大いに活用しましょう。

「香港の集い」懇親パーティーの開催

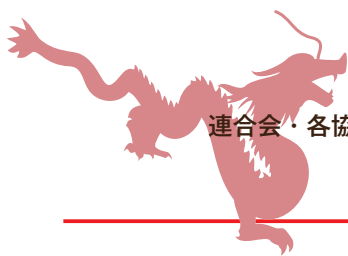
11月11日に中華料理錦城閣で「香港の集い」懇親パーティーを開催し前年の参加者を上回る43名が参加してパーティーを楽しみました。



「香港の集い」懇親パーティー

パーティーは戒田会長の挨拶で始まり、香港貿易発展局のフォン所長が「最近の香港」についてショートスピーチを行い、香港貿易発展局からパーティーに参加している皆さん（4名）を紹介し、それぞれが自己紹介の挨拶をしました。続いて、伊藤副会長が乾杯の音頭を取り会食に入りました。レストランの特別サービス料理が美味しかったですね。最後は、田島副会長の司会で、参加者全員に景品が当たるラッキードローを楽しみ、田中副会長の閉会挨拶で楽しかったパーティーを終了しました。





香港で開催された展示会に、 中部エリアから多くの事業者が出展

2025年、香港で開催された食品の展示会「フード・エキスポPRO」(8月14~16日)と、酒類の展示会「香港インターナショナル・ワイン&スピリッツ・フェア」

(11月6~8日)において、中部日本香港協会の越智成幸会長が代表取締役社長を務める株式会社ジェイアンドシーが出展しました。両展示会では、加工食品やお菓子、ソフトドリンク、お酒など、中部日本香港協会に所属する法人会員の商品が同社のブースで多数展示され、訪れたバイヤーは試食や試飲を通じて高い関心を示しました。さらに、中部エリアからはジェイアンドシーにくわえ、岐阜県が7つの企業・団体によるパ



当協会の越智会長(左)と香港貿易発展局東京事務所の伊東所長



国税庁のジャパン・パビリオンに参加する株式会社ジェイアンドシー(右)

ビリオンを展開し、三重県からも5社が参加。地域の魅力を発信する場となりました。会期中は延べ50万人を超えるバイヤーや一般来場者で賑わい、国際的な商談や交流が活発に行われました。

中部日本香港協会 会員 松浦 寿裕

海外販路の創出・拡大に関する取組のご紹介

私は東海食品輸出コンソーシアムの事業統括として、東海エリア3県(愛知県・岐阜県・三重県)の食品輸出拡大と継続的輸出プラットフォームの構築及び東海エリア内の食品輸出を目指す事業者の掘り起こしをしています。東海食品輸出コンソーシアムは2023年3月13日に発足した団体で、東海3県の食品製造事業者団体、地域商社、地域の金融機関が事業実施主体となり、海外現地輸入商社、国際物流会社等が連携事業者、また、各行政・JETRO等が支援機関となっています。県域を越えて一体的に海外販路の創出・拡大を行うもので、東海農政局管内の全ての県が参画する取組となっています。その中で特に香港は、2024年度農林水産物・食品輸出額、国・地域別に世界第2位であり、東海エリア内で食品輸出を目指す事業者が、最初に体験するには地理的要素・輸出のしやすさを考慮し、最重点地域と考え日常活動とともに次のような香港におけるイベントに参加しました。

◆フード・エキスポPRO

2025年8月14~16日に香港コンベンション&エキシビジョンセンターにて開催されたフード・エキスポPROに、東海食品輸出コンソーシアム事業統括として参加しました。会期中は、香港輸出支援プラットフォームとの情報交換、展示会出展関係者・事業者との意見交換を行う等、香港のリアル、参加者の生の声も聞くことが出来、非常に有意義な参加となりました。参加事業者の支援継続は勿論ですが、最新香港の現状や情報を東海エリアの皆様へ還元することで、地域全体として輸出促進を図っ

ていきたいと考えています。フード・エキスポPROは展示会的側面だけでなく、たくさんの情報が詰まった貴重な機会です。次年度以降についても、活動継続していく方針です。

◆香港インターナショナル・ワイン&スピリッツ・フェア2025 & 香港個別商談会

2025年11月6日の午前中、岐阜県産農畜水産物等輸出拡大事業の一環として、香港コンベンション&エキシビジョンセンターの会議室にて香港個別商談会が開催されました。岐阜県食品事業者からは5社6名が商談会に参加され、香港側バイヤーは3社をお招きし、活発な商談会となり、日本国内で行う商談会ではなく、現地開催商談会の意義を十分体験頂きました。午後からは香港インターナショナル・ワイン&スピリッツ・フェアへの参加及び香港量販店視察ツアーが実施され、参加者からは「マーケット・インのマインド醸成に非常に役立った」と反響の大きなイベントとなりました。1日で凝縮したイベント開催(商談会・国際展示会・量販店視察)を可能にするのは香港ならではのあり、改めて香港の重要性を認識する機会となりました。



香港のバイヤーと商談する岐阜県食品事業者



KYUSHU

九州日本香港協会

九州日本香港協会 事務局長 チェ・キョンミ

地域資源をアジアへつなぐ九州企業の新たな展開 —ライブコマース・体験観光・食の輸出が示す変化の潮流—

2025年11月6日、福岡市内で開催されました九州日本香港協会会員交流会には、約30名の会員が参加しました。本交流会は、九州とアジアのビジネス連携が急速に深化するなか、地域企業がどのように海外市場と向き合い、自社の強みをどのようにアジアへ伝えているのかを共有する貴重な機会となりました。

登壇・発表したのは、西日本鉄道の方玉華氏、メディアインターナショナルの江口揚代表取締役、農事組合法人福栄組合の中垣誠専務理事です。3社はデジタル、観光、食品と異なる分野に属していますが、共通するのはアジア各地域の多様なニーズを踏まえ、九州の地域資源を新たな形に編集して届けている点です。

西日本鉄道：ライブコマースで「九州の日常」と向き合う

方氏は、中国・香港圏で利用が拡大するSNS「小红书（RED）」を活用したライブコマース事業「OMAKASE Live」の取り組みを紹介しました。「バスの乗り方」や「休日の過ごし方」といった生活密着型コンテンツが人気を集め、フォロワー数は6,000人を突破しています。

特に印象的だったのは、日常そのものをコンテンツにしている点です。商品説明を超え、九州の日常生活・暮らしの工夫・地域の空気感を丁寧に伝えることで視聴者との心理的距離が縮まり、結果的に九州への興味が高まる構造が生まれています。また、近年は西鉄住宅・不動産の紹介にも領域を広げ、福岡県大善寺の戸建住宅を紹介した動画には、香港やシンガポールなど多地域から問い合わせが寄せられました。

オンライン配信が、観光や物販にとどまらず、ライフスタイルを通じた地域理解へと発展しつつある好例といえます。方氏



西日本鉄道の投影資料

は「ライブコマースは商品よりも地域の物語を伝えるメディアです」と語り、九州の生活文化をアジアへ発信する可能性を示しました。

メディアインターナショナル：アジア旅行者が求める“体験”をデザインする

江口氏は、SNS総フォロワー44万人を活用した香港・台湾・ASEAN市場に向けた体験型観光プロモーションを紹介しました。とりわけ久留米市と連携して行った果樹園体験プログラムでは、香港の旅行会社EGLツアーズをはじめ複数の事業者と協働し、年間3,000人以上の送客を実現しました。動画やSNS発信と現地パート

ナーの販売導線を組み合わせることで、「情報発信→体験予約→再訪問」へとつながる循環が生まれています。

江口氏が強調したのは、アジアの旅行者は、利便性とローカルの温かさを同時に求めるという点です。

福栄組合：嗜好の違いを市場機会に変える—「はかた地どり」

中垣氏は、在来種「はかた地どり」をアジア市場に展開する取り組みを紹介しました。はかた地どりは一般的な鶏肉の約2.3倍の価格帯に位置する高品質なブランドで、肉質の良さや安全性が高く評価されています。

注目すべき点は、部位嗜好の違いを的確に捉えた戦略



福栄組合の投影資料

です。日本ではモモ肉が圧倒的に人気ですが、香港、シンガポールをはじめとするアジア市場では脂肪が少なくヘルシーと評価されるムネ肉の人気が高い傾向があります。福栄組合はこの市場特性に着目し、国内では比較的需要が少ないムネ肉を健康志向の高い香港市場向けにブランド化しました。その結果、香港では年間45トンの輸出を実現し、高級スーパーや専門レストランでの採用が広がっています。

中垣氏は「アジア全体で日本産食品の信頼は非常に高く、はかた地どりの価値拡大によって大きな追い風となっています」と述べ、輸出の先にあるブランド構築の重要性を示しました。

◆アジア市場をつなぐ「地域発モデル」へ

今回の3社の発表に共通するのは、香港を含むアジア各地域の多様な嗜好や文化的背景を理解し、それに応じて地域資源を再編集して届ける姿勢です。ライブコマースは地域文化の“翻訳装置”に、体験観光は旅行者と地域をつなぐ“関係構築の場”に、食品輸出は地域ブランドを拡大する“ストーリーの媒体”へと進化しています。本交流会は、九州企業がアジア市場とつながる実践例を共有し、地域の価値が国境を越えて広がりうる未来を体感できる非常に有意義な機会となりました。

九州の物語がアジアへ届き、さらなる展開が進むことを期待しています。



福栄組合 中垣誠専務理事





山形と香港の架け橋

この度、山形県と県内酒蔵7社は、国際的なアルコール飲料業界の専門見本市である「香港インターナショナルワイン&スピリッツフェア」(以下、HKIWSF)にブースを出展し、山形が誇る銘酒と、その背景にある豊かな文化、そして多岐にわたる魅力的な産品を世界に発信する貴重な機会を得ました。当協会も、この出展を全面的にサポートし、山形と香港の架け橋としての役割を果たすことができました。

◆銘酒の王国、山形を世界へ

2025年11月に開催されたHKIWSFは、アジアのワイン・スピリッツ市場における重要な商談の場であり、世界各国から多数のバイヤーや業界関係者が集まります。山形県は、県内の選りすぐりの酒蔵7社とともにブースを展開し、特に近年、その品質の高さから国際的にも評価が高まっている山形県産日本酒の魅力を強くアピールしました。

ブースでは、山形県と県酒造組合が「日本の最高峰」「世界に誇れる高級な日本酒」を目指して開発した、オリジナルブランドの純米大吟醸である「山形讃香(やまがたさんが)」が振舞われました。「山形讃香」は、「雪女神」という山形県産の最高級酒米の「チャンピオン米」を使い、その年の酒米コンテスト上位者と酒造組合の品評会で上位に入った数社の「チャンピオン蔵」がタッグを組み、最高の技術で醸造する、まさに「夢の日本酒」です。その洗練された味わいや、米どころ山形ならではの豊かな風味は、多くのバイヤーの関心を集めました。国際的な展示会において、単に商品を陳列するだけでなく、試飲という体験を通じて、山形の酒文化そのものを伝えることができた意義は非常に大きいと言えます。

◆米と食の力で魅力を補完

今回の出展における特筆すべき点は、日本酒に留まらない山形県の総合力の発信に力が注がれたことです。日本酒のプロモーションはもとより、山形県の観光名所や、他の魅力的な産品についても広く紹介されました。

その中でも特に来場者の注目を集めたのが、山形県産



香港インターナショナルワイン&スピリッツフェア

米を使用したおにぎりの提供です。これは、おにぎりという日本のソウルフードを通じて、山形の豊かな大地で育まれた高品質な米の美味しさを、世界の皆様にダイレクトに伝えるための画期的な試みでした。

この山形おにぎりを提供したのは、他ならぬ当協会の会員企業である丸屋本店です。丸屋本店は香港で炊飯事業を営んでおり、香港の自社工場では山形県産米を使用したおにぎりを生産し、セブンイレブンに納品も行っていきます。今回のイベントでは、すき焼き風の山形牛が具材のおにぎりが来場者に振舞われました。山形県産米の持つ粒立ちの良さ、噛むほどに広がる甘みと旨みを、鮮度を保ったまま香港のフェア会場で再現し、日本酒とのペアリングの妙も演出しました。この取り組みは、単なる試食提供にとどまらず、山形の食と香港のビジネスが結びついた、まさに協会が目指す国際経済交流の具体例として、現地メディアからも高い関心を集めました。食の多様性に敏感な香港市場において、米の美味しさを訴求することで、日本酒だけでなく、山形県産品の新たな輸出の可能性を切り拓くものとなりました。

◆大沼みずほ会長が語る山形の未来

今回の出展では、当協会の大沼みずほ会長による山形県のプレゼンテーションが行われました。大沼会長は、培ってきた国際的な視点と、山形県への深い情熱をもって、来場者に向けて力強く山形県の魅力をアピールされました。特に、香港と山形の歴史的なつながりや、今後さらに経済・文化面での交流を深めていくことの重要性を強調され、当協会がその中心的な役割を担っていく決意を表明されました。



山形県のプレゼンテーション

◆交流の架け橋としての使命

今回のHKIWSFへの出展は、山形県と県内企業が、国際市場での競争力を高め、新たな販路を開拓するための重要な一歩となりました。日本酒を核としつつも、おにぎりや観光といった多角的なアピールは、山形県の魅力を立体的に伝えることに成功したと言えます。

当協会は会員企業の皆様の活動を支援するとともに、今後も山形県と香港との経済・文化交流の発展に尽力して参ります。



HOKKAIDO

北海道日本香港協会

北海道日本香港協会 事務局

北海道の“おいしい”が香港を魅了！

◆「フード・エキスポPRO」「フード・エキスポ」現地レポート

香港最大級の食品展示会「フード・エキスポPRO」「フード・エキスポ」が、2025年8月14日から18日まで香港コンベンション&エキシビションセンターで開催されました。

◆北海道ブランドの存在感

今年はB to B特化の「フード・エキスポPRO」(14～16日)に北海道からも多くの企業が参加。海産物・乳製品・菓子・日本酒など、多彩な魅力を現地に発信しました。会場内では試食コーナーや実演調理が人気を集め、来場者の注目を浴びました。



北海道ブース

香港から日本を訪れる旅行者は年間260万人を超え、都道府県ごとの特産品に詳しい人も少なくありません。そのため、出展商品を見るバイヤーの目は厳しく、付加価値の高さや希少性が重視される傾向があります。

札幌物産協会が主催する共同ブースやニトリパブリックのブースには、つぶ貝やカニ、鮭といった海産物から、じゃがバター、ドレッシングなどの食品、ティラミスやシュークリーム、あんぱんといった人気菓子までが並びました。



北海道商品の魅力をPR



BtoC向け会場

英語や中国語繁体字で用意されたパネルやPOPが設置され、海外バイヤーとの商談もスムーズに進行。現地での嗜好に合わせたアレンジ提案や試食を通じ、来場者が北海道ブランドを存分に楽しむ様子が見られました。

◆消費者市場でも広がる人気

B to C向け会場では、味珍味などの日本食品ディストリビューターブースが出展。北海道産の牛乳や白老(しらおい)牛の生ハム、とうきび(とうもろこし)、ゼリーなどが販売されました。特に北海道産とうきびは、初日分がわずか3時間で完売するほどの人気ぶり。香港においても、北海道ブランドへの信頼と関心の高さが改めて示されました。

「当イベントを通して、北海道産食品の良さを香港市場にアピールするとともに、出展者にとっても実りある商談を行うことができた」と出展者からは手応えを感じる声が上がっていました。



白老牛PR

これらと同時に、外食事業者向け「グルメゾーン」、茶の国際見本市「香港インターナショナル・ティー・フェア」、一般消費者向けの「ビューティフル&ウェルネス・エキスポ」「香港家電・日用品展」など、多彩なゾーンが設けられ、会場は5日間にわたり世界中の“食”で賑わいました。





香港料理教室ミニイベントを開催

香港料理教室ミニイベントを11月16日に仙台市内で開催いたしました。今回のテーマ料理は、香港で年末に親しまれている伝統的なスイーツ「芝麻・花生湯圓(ジーマ・ファーサントンユン)」。黒ゴマやピーナッツの餡をお団子に包み、ショウガを効かせた甘くて温かいスープでいただく、身体も心も温まる一品です。



宮城日本香港協会の香港出身メンバーによるデモンストラーションでは、湯圓の生地をやわらかく仕上げるポイント、ゴマ餡をとろりとさせるためにバターを加える工夫、さらには冬にぴったりのショウガの効かせ方などを、丁寧にご紹介いただきました。参加者の皆さまは、初めて挑戦する料理に戸惑いながらも、実際に湯圓を丸める作業を楽しんでおられ、「思ったより難しいけれど楽しい」「家でも作ってみたい」といった声が上がりました。少人数ならではの温かくアットホームな雰囲気の中で、和やかな料理体験が広がるひとときとなりました。

香港では、湯圓は“家族円満”や“一年の締めくくり”



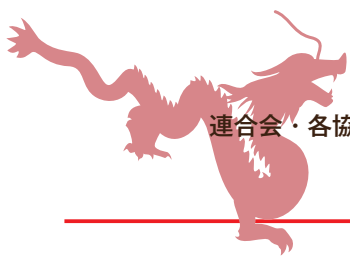
を願って年末に食べる風習があるといわれます。調理を通して、ただ味わうだけでなく、その背景にある文化や想いを知る時間となったことも、このミニイベントの大きな魅力でした。

参加者の皆さまがご自身で作った芝麻湯圓や花生湯圓を味わいながら笑顔を見せてくださる姿を拝見し、主催者として大変有意義な時間であったと実感いたしました。3名という少人数ながら、終始ゆったりとした温かな雰囲気の中で香港の話題をきっかけに会話も弾み、参加者同士の距離が自然と縮まり、香港の食文化を気軽に楽しんでいただける機会となりました。



今回の香港料理教室では、少人数ならではの濃密な学びと交流が生まれました。次回の開催も視野に入れつつ、香港の魅力をより多くの方にお伝えしていく活動の意義をあらためて実感できるイベントとなりました。





OKINAWA

沖縄日本香港協会

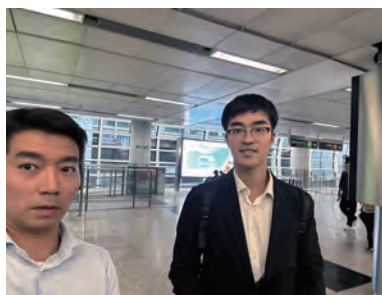
沖縄日本香港協会会員 弁護士（香港ソリシター） 絹川 恭久

香港での国際会議に参加して

私は日本の弁護士と香港の弁護士（ソリシター）両方の資格を保有し、日本（沖縄）と香港のそれぞれに所属する法律事務所があります。元々香港に7年程住んでいたため永久居民（PR）資格を持っていますが、2019年からは沖縄を拠点にしつつ、定期的に香港に出張する形で日本と香港両方の仕事を継続しております。今回の出張で印象に残った点をいくつか取り上げたいと思います。

日本の弁護士としては沖縄弁護士会に所属しておりますが、弁護士会では毎年20名ほどの司法修習生を受け入れており、任意に抽出された沖縄県の弁護士が各司法修習生のマンツーマン指導担当弁護士として、仕事の内容を見せることとなります。私は昨年初めて指導担当弁護士として修習生を受け入れることになりました。先述した通り弁護士としては少し特殊なことをやっておりますが、香港でも活動をしているため指導の一環として香港の様子を見せてみたいと思って司法修習生のSさんを今回の香港出張に帯同しました。写真は香港空港ですが、私は香港IDカードで入境、Sさんはパスポートでの入境となりました。自動改札機のある香港IDカード保有者と異なり、パスポートで入境する外国人は入境審査の行列に並ばないといけ

ないのですが、私が荷物の受取りを待っている間すぐにSさんは入境審査が終わって（ものの3分くらい）合流出来ました。改めて香港の入境審査の効率の良さを感じました。



香港空港到着

香港内では一番重要な「指導の一環」として、朝の仕事前のエビワンタンメンのおいしさを教えてきました。腰がある独特の細麺とあっさりした澄まし汁のようなスープが荒れた朝の胃袋にとってもぴったりです。

今回私は、STEP（Society for Trust and Estate Practitioners）という団体の2025 Asia Conferenceに参加する目的で香港に出張しました。このSTEPという団体は、香港のみならず、シンガポールや米国、ヨー



仕事前のエビワンタンメン

ロッパ、オセアニア各地などに拠点を有しており（残念ながら日本にはない！）、弁護士、会計士、銀行、信託会社、その他各国に資産を有する個人資産家のために活動する専門職実務

家が所属する国際的な民間団体です。アジアでの会議は1年毎交代で香港とシンガポールで開かれており、今年も湾仔の香港コンベンション&エキシビションセンターそばにあるグランドハイアットで11月6日と7日の2日に渡って開催されました。



STEP 2025 Asia Conference

たくさんの来場者があり、私が名刺交換や立ち話をした人だけでも、アメリカ、カリブ海のケイマン諸島、イギリスのチャンネル諸島にあるジャージー島、オランダ、ニュージーランド、中国など、世界各国から多くの実務家が参加していました。コロナが終わって元通り世界中の人が国境を越えて動き出しており、香港も元の賑わいを取り戻し始めています。元々香港は、こういった世界中からの人が集まって情報交換や交流をする場所として発展してきましたが、香港の交通の便の良さと、国際会議を運営するノウハウや事務効率の良さを改めて実感しました。

私は仕事の合間での参加でグランドハイアットのBBQのフェアウェル・パーティを楽しみにしていたのですが、台風の影響かあいにくの雨でした。ただ、おいしいお肉やワインを楽しみながら、世界中の方々と交流を存分に楽しみ、また今後のビジネスにつながる出会いがたくさんできたと満足して帰途につきました。

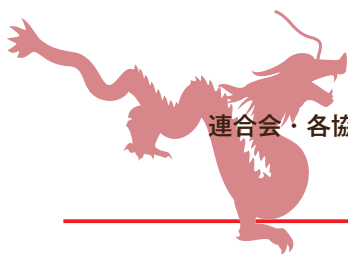


フェアウェル・パーティへ

私は2019年から6年程継続して沖縄から香港に通っておりますが、片道2時間半のフライト、1日3~5往復の飛行機があるため、東京に行くような感覚で気軽に沖縄から香港に「通って」おります。皆様も、日本に一番近い「英語圏」の香港に英語の腕試しに気軽に渡航してみたいかでしょうか？

香港には沖縄県人会（私も所属しています）などもあり、現地の日本人も和気あいあいと付き合っておりますので、皆さんも是非とも郷土の仲間を頼りに香港に来ていただければと思います。





広島日本香港協会令和7年度通常総会

令和7年7月24日、広島日本香港協会令和7年度通常総会をオリエンタルホテル広島にて開催いたしました。本年度の通常総会は、法人43会員、個人9会員、合計52会員のうち、17会員27名参加のもと行われました。

当協会の池田晃治会長からは、「令和6年12月に香港で開催された『香港フォーラム』に代表団を派遣し、世界各国の香港協会との連携や香港市場の視察などを通じて、大きな刺激を受けたと報告された」と発言があり、本年度も活気ある香港に直接触れる機会である令和7年12月の香港フォーラムへ参加しました。

続いて、令和6年度事業報告及び令和6年度決算報告、令和7年度事業計画案及び令和7年度予算案について審議し、満場一致で承認されました。



通常総会

その後、講師としてお越しいただいた、日港アライアンス株式会社の劉家駒(ネオン・ラウ)代表取締役役に「香港における日本食品マーケットの現状」というテーマでお話いただきました。

劉氏からは、消費習慣の変化(2017~2025年)、小売・飲食構造の変化、バイヤーと消費者の変化、「観光回復≠消費回復、今、香港市場で必要なこと」などについて、現地の写真を多数紹介し、わかりやすく解説いただきました。香港食文化・消費行動の変化については、2019年以降、政治不安により高所得層が英国、カナダ、オーストラリア等に流出し、香港に残るのは超富裕層が低~中所得層になり消費の二極化が起こっていて、パンデミック後の現在は経済の回復が一部の階層に留まり、オンライン購入の習慣化によりEC/ソーシャルメディアによる販売チャネル傾向が強まっているとのこと。また、節約意識の高まりから、「三品ご飯」という安価な中華弁当を宅食する習慣も定着したそうです。

かつては売れていた日本産の高級和牛、果物等の高価格商品も売れにくくなり、一般家庭向けの調味料、お菓子、海苔なども買い控えが起こっており、さらには、安価な中国本土の商品や日本風中国製品にも価格面で負ける事態となっていることが分かりました。

しかし、香港バイヤーが買わなくなったのかというと、そうではなく、選ばれにくくなった中で選ばれるために



講演会

は、いかに信頼でき、健康的で、ライフスタイルを重視できる商品を提案できるかどうかにかかってくるようです。有望なカテゴリーとしては、日本産の卵、有機食品、高齢者や子供対応のケアフードです。日本製品が“価値”で勝つためには、価格以外の武器を持つ、比較されにくいニッチまたはストーリー性ある商品、SNSなどの口コミ運動型販売、独自のセット提案や定期購入でリピート戦略が大事とお話も聞き、香港へのビジネス展開の極意を教わりました。これからも会員に香港のタイムリーな情報の提供や、香港へのビジネス展開の後押しを行っていただければと思います。

交流会

今年度も総会に続き交流会を行いました。交流会では、佐伯安史副会長と今年度、池田会長退任に伴い会長就任の松藤研理理事から挨拶があり、来賓の香港貿易發展局、会員の皆様との交流を深めました。

法人会員、個人会員問わず多様な業種の方々にご参加いただき、香港に在住経験のある会員や、香港に精通している会員の方との交流を深めることで、香港をより深く知ることができました。会員の皆様の香港への関心の高さと、香港とのビジネス交流や人的交流等、さらなる関係強化を図りたいとの思いに触れることができ、非常に有意義な会となったところです。御多用のところ、ご参加いただきました会員の皆様、香港貿易發展局の皆様にご場をお借りして厚く御礼申し上げます。

引き続き、当協会では、会員の皆様と香港との相互理解と友好を促進し、経済の交流を図るための活動を展開していきます。



交流会



NIIGATA

新潟日本香港協会

新潟日本香港協会 事務局 川端 亜紀子

新潟から香港へ——国際交流の
連続性と未来への期待

2025年5月、新潟市で開催された「アジアフォーラム2025 in 新潟」は、当協会にとって大きな節目となりました。本フォーラムは、2023年12月に開催された香港フォーラムへの参加の際、吉田会長が新潟開催を提案したことから始まり、その後約1年半にわたる準備を経て実現したものです。当日は日本各地のみならず、香港をはじめとするアジア諸国、欧米地域等からも参加者が集い、総勢224名という国際色豊かな交流の場となりました。



アジアフォーラム2025 in 新潟 (インターナルミーティング)

既に前回の飛龍でも報告いたしました、新潟開催は単なるイベントとしてではなく、「国際交流の新たな章の始まり」として多くの意義を残すことが出来ました。国内外からの参加者が新潟の地域資源や文化を体験し、地域企業との交流や国際協力の可能性を語り合う機会は、参加者の視野を広げ、また、新潟にとっても新たな発信の機会となりました。当協会としても、多くの方々との新しいネットワークが生まれ、地域と世界を結ぶ活動基盤がさらに強固となりました。



アジアフォーラム2025 in 新潟 (HONG KONG NIGHT)

そして、その後、2025年12月に開催された第26回香港フォーラムには、吉田会長をはじめ当協会から9名が参加しました。今回の参加は「アジアフォーラム新潟の御礼」だけでなく、そこで生まれた新たなつながりを次の展開につなげる重要な機会でもありました。

新潟でのアジアフォーラムにて国内外の方々とお会いし、その半年後に再び香港で交流を深めることが出来た



アジアフォーラムでの日本酒試飲コーナー

という流れは、大変意義深いものでありました。「循環し続ける国際交流のモデル」として、今後も成果を生み出していき、継続的な国際協力につなげていければと考えております。また、香港フォーラムでは、新潟からの参加者が自らの視点で新たなテーマや課題を持ち帰ることもできたので、今後の活動に活かしていければと思います。

国際交流は、一度の出会いだけで始まるものでも終わるものでもありません。文化・経済・人材育成・地域連携といった様々な視点で多角的に継続し、対話を重ねることで、地域と世界の距離は確実に縮まっていくと思います。アジアフォーラム新潟開催と、香港フォーラムへの参加が、今後の新潟、香港、さらには国際社会との多層的な関係づくりの新たなステップにつながることを願っています。

次号では、香港フォーラム参加者による現地レポートや感じた視点・交流の様子などもお伝えできればと考えております。



ASIA FORUM 2025

21-23 May Niigata, Japan

Sponsors 協賛企業・団体：

| | | |
|---|---|---|
|  | | |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  | |
|  |  |  |
|  | | |
|  |  |  |
| |  |  |

アジアフォーラムの協賛各社のパネル



新年好！

厳しい寒さを迎えておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

高知協会においては、2025年10月28日、香港四季楼虎嘯（ほんこんしきろうこしょう）にて、松田会長就任後初の交流会と意見交換会が開催され、今年度より新入会員となったメンバーの紹介もありました。



交流会での松田会長挨拶

新入会員には、ブライダル、スイーツ、イベント企画、地域商社など、高知県内外で活躍されている方も多く、今後の活躍が楽しみです。法人会員のご紹介を以下、簡単にご紹介させていただきます。

株式会社地域商社こうち 代表取締役 竹内清彦様

地域の産業、教育、自治体、金融と連携し、「地域の資源をつなげる、ひろげる」ことから地域付加価値の創出を目指しておられ、これにより、多くの人に高知の魅力を届け、交流人口を増やし、地域とともにサステナブルな社会の実現を目指し、通常の金融業の枠を超えた広範なサービスを提供することで、地元事業者の商流・営業支援に取り組んでおられます。

株式会社ブランジスタメディア 川添有啓様

会員の皆さんにはご存知の方もいらっしゃると思いますが、『旅色』、男性誌『GOODA』などの高品質な電子雑誌を制作・運営されています。またこの電子雑誌の制作ノウハウを活かし、企業や自治体に対し、広告掲載やタイアップ記事の制作を提供しています。特に、自治体向けには『旅色』を使った観光振興、移住促進などのシ



松田会長初の交流会集合写真

ティプロモーションサービスに強みを持っており、今後は独自の予約サイトも構築されるそうです。

有限会社華珍園 代表取締役 中越景之様

昭和22年（1947年）、終戦直後の高知市にて、中国河南省出身の創業者によって設立されました。以降、70年以上にわたり高知の中華料理店の中心的存在であり続け、「報恩謝徳」を創業精神として、昔ながらの味と技法を守っておられます。昼夜問わず、常に行列のできる大人気のお店で、この度の入会に際しては、中越社長のご令嬢も会合に参加されるなど積極的に参画いただけそうです。



その他、個人会員の皆さんに関しては、折をみて飛龍にてご紹介をさせていただきます。会員数におきましても、新年度以降、順調に増加をしており、松田会長を先頭に拡大に向けて活動してまいります。

さて、高知におきましてはNHK連続ドラマ小説『あんぱん』の放映が終了し、一抹の寂しさを感じているところです。

会員の皆さまの中には楽しみにご覧になった方も多いのではないのでしょうか。特に強調されていた「ほいたらね」は、現代の高知でもよく口にし、耳にする馴染みの土佐弁です。流行語大賞にノミネートされた時は驚きでした。

もう一つ、「たまるかぁ」という土佐弁も多用されていました。驚いた時、喜ぶ時、称える時、褒める時、悲しい時など、いろいろなシチュエーションで使える、高知の人にはとても便利で身近な言葉です。高知協会の取り組みが、たまるか！と言われるよう、頑張りたいところですね。

また12月の香港フォーラムには5名の参加をさせていただきました。コロナ後では一番多い参加者となり、滞在中には充実した行程を計画いたしました。現地に関わっていただきました関係者の皆さんに心から感謝を申し上げます。来年は更に増員できるよう努めてまいります。

最後になりますが、香港で昨年末に発生した高層マンション大火災において被害に遭われた多くの皆さんに心から哀悼の誠を捧げますと共に、一日も早い復旧と、ご遺族、ご関係者の皆さんに対し心からお見舞いを申し上げます。



飛龍

URL <https://www.jhks.gr.jp>

日本香港協会全国連合会 電話 (03) 5210-5901
〒102-0083 千代田区麹町3-4-5 トラスティ麹町ビル6階
香港貿易發展局内

NPO法人日本香港協会（東京） 電話 (03) 5210-5870
〒102-0083 千代田区麹町3-4-5 トラスティ麹町ビル6階
香港貿易發展局内

関西日本香港協会 電話 (06) 4705-7030
〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階
香港貿易發展局内

中部日本香港協会 電話 (0533) 77-2468
〒441-0304 豊川市御津町佐脇浜3号地1-27 株式会社平松食品内

九州日本香港協会 電話 (092) 260-3748
〒810-8629 福岡市博多区中洲2丁目6-10 株式会社ふくや内

山形日本香港協会 電話 (023) 665-1310
〒990-2301 山形市蔵王温泉丈二田752-2
ユニテ蔵王ジョーニダ・リゾート内

北海道日本香港協会 電話 (011) 261-4288
〒060-8661 札幌市中央区大通西3-7 北洋銀行国際部内

宮城日本香港協会 電話 (022) 226-7025
〒980-0021 仙台市青葉区中央1丁目6-18 山一仙台中央ビル8階
株式会社Sola.com内

沖縄日本香港協会 電話 (098) 8686-3758
〒900-0033 那覇市久米2-2-10 那覇商工会議所内

広島日本香港協会 電話 (082) 248-1400
〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ4階
ひろしま産業振興機構 国際ビジネス支援センター内

新潟日本香港協会 電話 (025) 365-1250
〒951-8065 新潟市中央区東堀通一番町494-3 2階 愛宕商事株式会社内

高知日本香港協会 電話 (088) 855-9570
〒780-0056 高知市北本町4-4-7 パールマンション1301
株式会社オルトル内

日本5都市*から香港へ

真心を込めたおもてなしでお迎えます



HONGKONG AIRLINES

香港航空

*東京、大阪、札幌、福岡、沖縄



今すぐ検索!

